

[成果情報] 高冷地における硬質小麦「ゆめかおり」の播種適期は11月上旬から中旬である

[要約] 硬質小麦「ゆめかおり」は、山梨県高冷地において11月上旬から中旬に播種することで、凍霜害や倒伏を回避するとともに、500kg/10a以上の収量および容積重や子実タンパク質含有率のランク区分基準値を確保することができる。

[担当] 山梨県総合農業技術センター・栽培部・作物特作科・上野直也

[分類] 技術・参考

.....
[課題の要請元]

山梨県パン協同組合、山梨県学校給食パン協同組合、(株)はくばく、花き農水産課、中北農務事務所

[背景・ねらい]

硬質小麦「ゆめかおり」は製パン性に優れることから中間・高冷地において作付けが増加している。多くは秋播き栽培であるが播種の適期は明らかになっていない。また、「ゆめかおり」の秋播性が低いことを利用した春播き栽培も一部で行われている。そこで、「ゆめかおり」の播種時期が収量や品質におよぼす影響について明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 出穂期は4月下旬から6月上旬、成熟期は6月下旬から7月下旬となり、いずれの播種時期においても成熟期は梅雨の中期から終期と重なる(図1)。
2. 10月中旬播種では幼穂の分化が進み、凍霜害による茎葉の枯死が発生した(図1)。
3. 秋播き栽培、春播き栽培ともに播種時期が遅くなるほど稈長が短く(図2)、穂数が少なくなった(データ略)。10月下旬播種では倒伏が発生した。
4. 子実収量は、秋播き栽培、春播き栽培ともに播種時期が遅くなるほど低下し、11月下旬から12月播種では400kg/10a台となった。4月播種は極端な低収となった(図3)。
5. 検査等級は4月播種や成熟期前に降雨が多い場合に格落ちした。千粒重は春播きや凍霜害を受けた区で低くなる傾向が認められた(データ略)。容積重は11月下旬～12月播種および春播きで基準値を下回った(図4)。
6. 子実タンパク質含有率は、秋播きでは播種時期が遅くなるほど高くなり、春播きでは穂揃期の追肥を行っていないにもかかわらず、年内播種と同等以上の含有率となった(図5)。
7. 県内高冷地における播種適期は11月上旬から中旬と考えられ、作付体系等により播種が遅くなる場合は年明けの2月～3月上旬播種も可能である。

[成果の活用上の留意点]

1. 農業技術センター八ヶ岳試験地(標高 955m 黒ボク土 畑)において、基肥 N-P₂O₅-K₂O 各 4kg/10a 茎立期・穂揃期追肥 N-K₂O 各 4kg/10a (1～4月播種では穂揃期の追肥なし)、播種量 7kg/10a (2013/14年播種は 10.5kg/10a) の条件で行った試験結果である。
2. 年内の播種を秋播き栽培、年明けの播種を春播き栽培として区分した。

[期待される効果]

1. 「ゆめかおり」を適期に播種することにより、良質な生産物が安定的に確保され、生産者の所得が向上するとともに、県内の実需者ニーズに答えることができる。

[具体的データ]

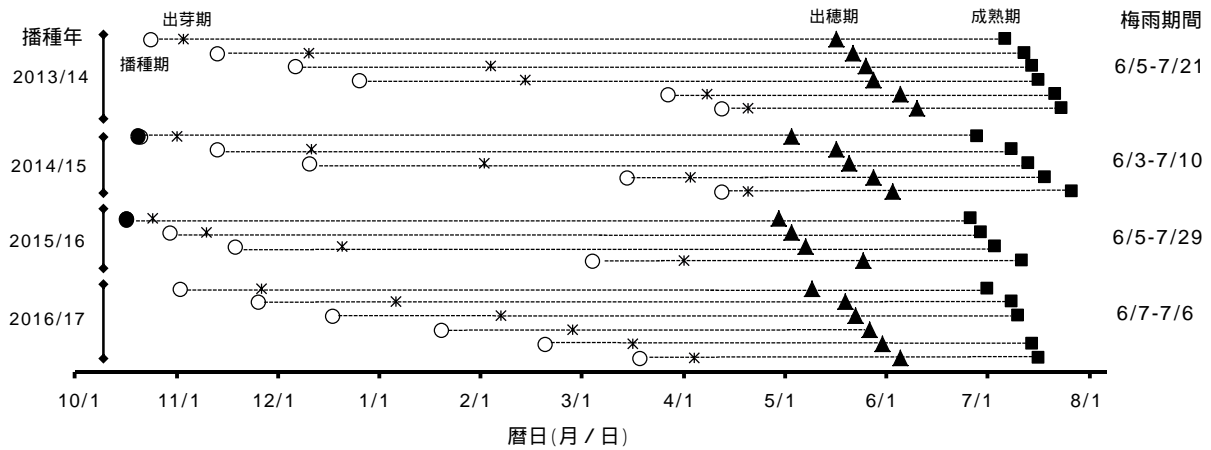


図1 播種日と出芽期・出穂期および成熟期の関係

- 1) は凍霜害を受けた試験区(以下の図同)
- 2) 2017年1月播種は出芽率が低かったため生育・収量データなし

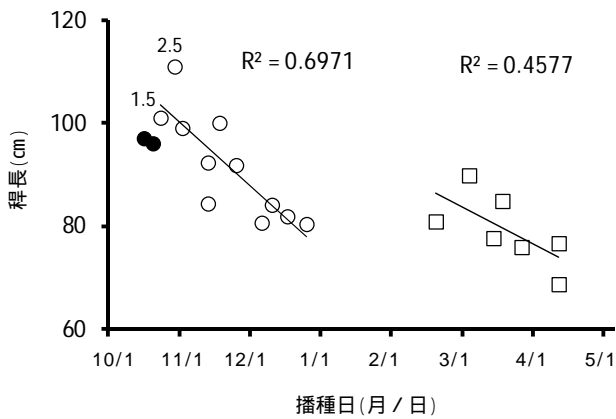


図2 播種日と稈長の関係

- 1) 図中の数字は倒伏程度 数字がないものは倒伏なし
- 2) 決定係数の***は0.1% **は1% *は5%で回帰関係が有意であることを示す(以下の図同)
- 3) 回帰式は倒伏なしのデータで算出(以下の図同)

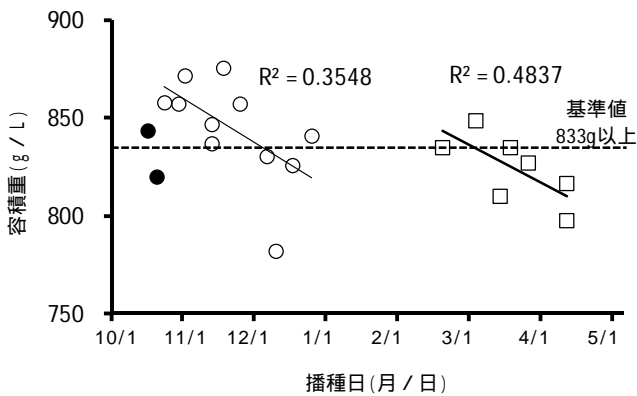


図4 播種日と容積重の関係

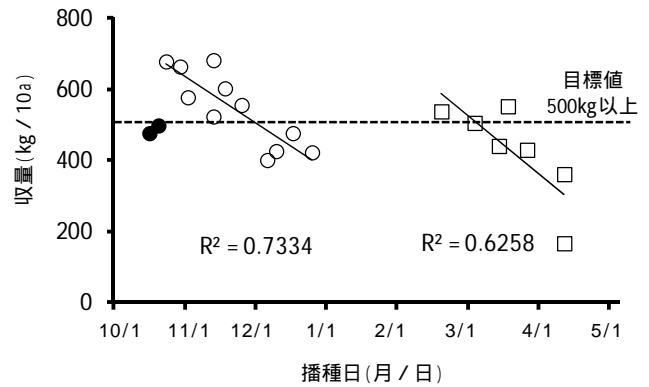


図3 播種日と収量の関係

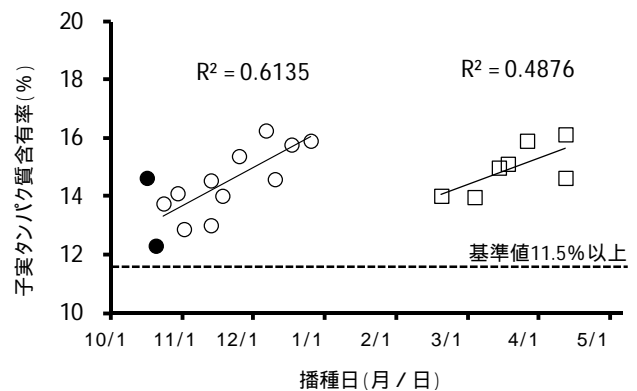


図5 播種日と子実タンパク質含有率の関係

[その他]

研究課題名:「ゆめかおり」の安定的な栽培技術の確立

予算区分: 県単(理工学)

研究期間: 2014~2017年度

研究担当者: 上野直也、加藤知美、向山雄大、石井利幸、加藤成二、馬場久美子、五味敬子、長坂克彦